

琵琶湖産アユの資源状況について

1. 魚群探知機による調査

- 1月から調査船の魚群探知機を用いて、①水深30m等深線上の周回コースの魚群数による評価、②横断コースで北湖全域を対象とした推定資源尾数による評価を行っている。
- 両調査ともに1月以降、資源水準は平年を大きく下回る評価が継続(図1, 2)。①4月の魚群数は6群で平年比4%(2024年4月の魚群数は21群)、②推定資源尾数は0.31億尾で平年比45%(2024年4月の推定資源量は0.30億尾)で昨年と同程度であった。

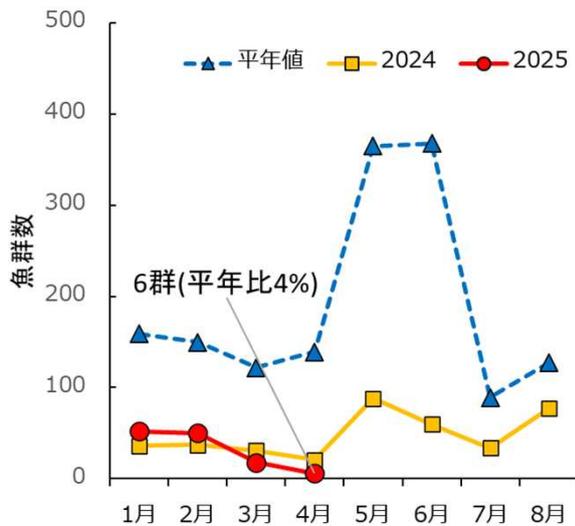


図1 魚群数の推移

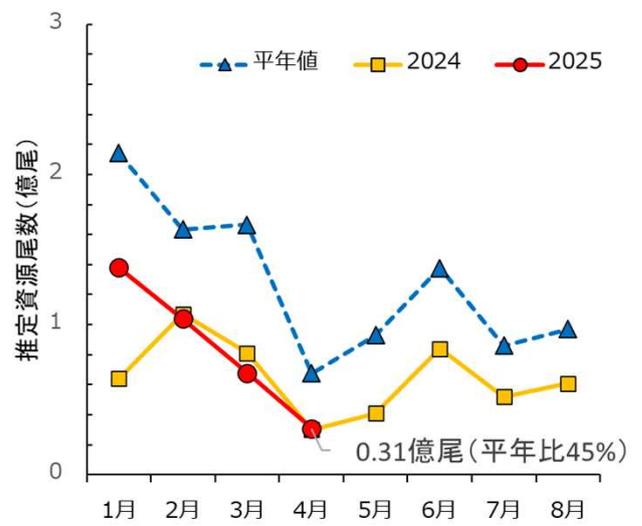


図2 推定資源尾数の推移

2. エリ漁獲アユの体型

- 平均体長は、12月解禁後から2月までは平年並み、3月以降には平年値を下回って推移(図3)。
- 平均肥満度は、12月解禁後から3月まで低下を続け、平年と比較してかなり低く推移。4月は平年値を下回っているものの上昇(図4)。

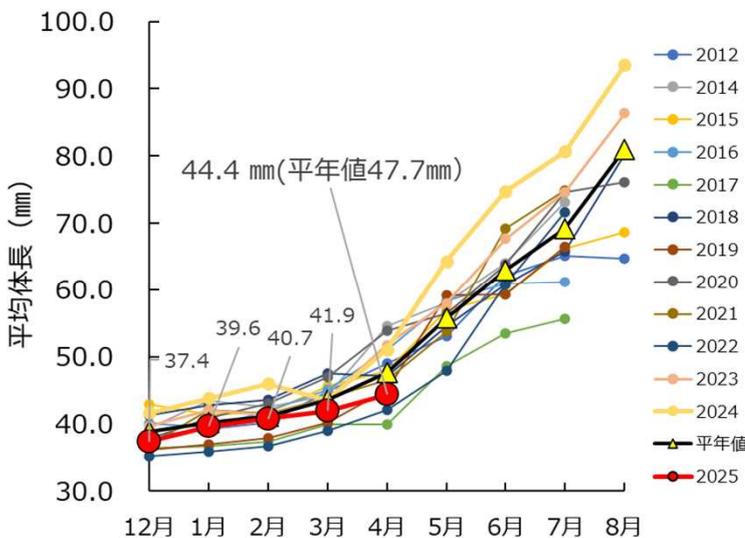


図3 エリ漁獲アユの平均体長の推移

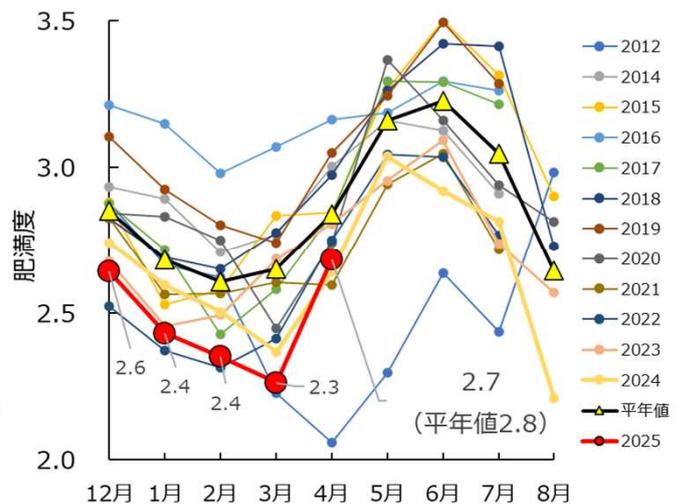


図4 エリ漁獲アユの平均肥満度の推移

- エリ漁獲魚では、4月下旬には体長100mmを超える大型個体もみられるようになった。(図5)。
- 平均肥満度は、2月下旬から低下傾向にあったが、4月上旬から上昇傾向に転じ、下旬には2.87となった。また、肥満度2.0を下回る個体の割合も減少してきた(図6)。

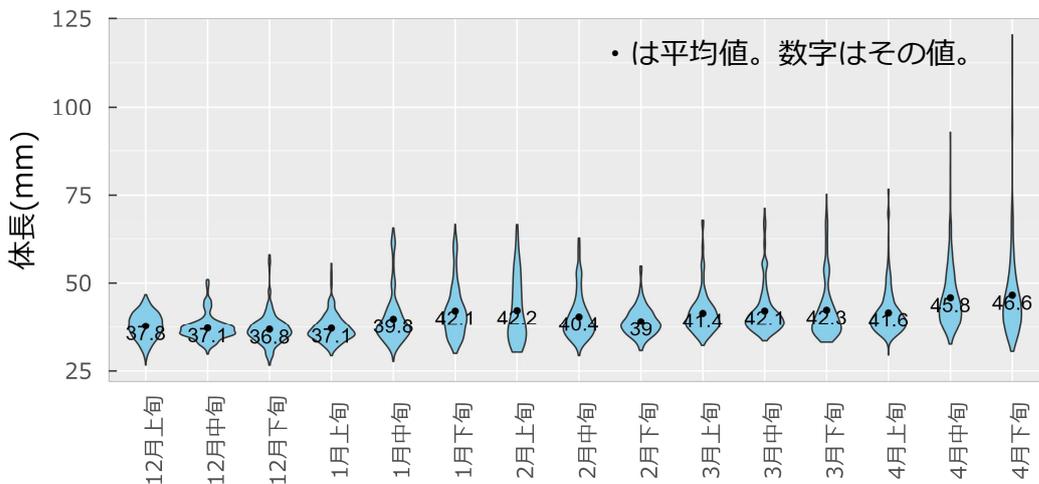


図5 2024年生まれエリ漁獲アユの体長組成の推移

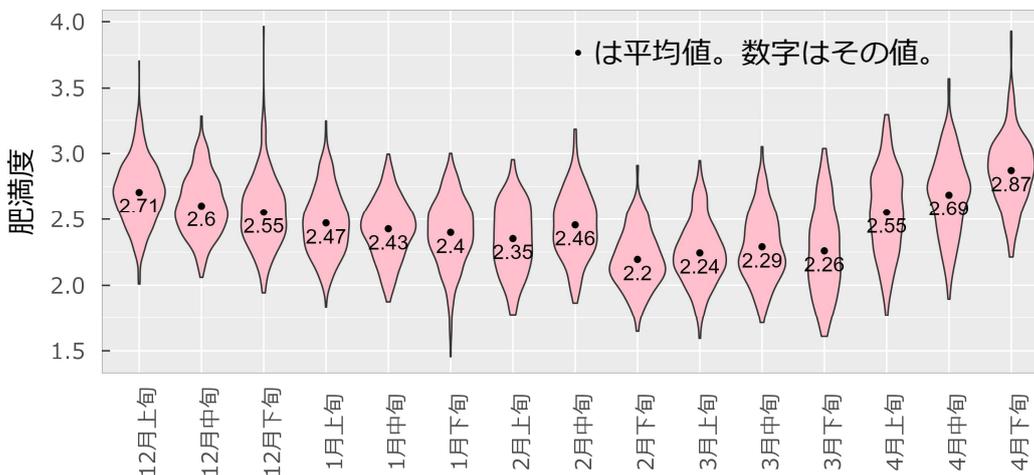


図6 2024年生まれエリ漁獲アユの肥満度の推移

3. ヤナ漁獲アユの体型

- 4月の平均体長は99.7mm、平均肥満度2.7でどちらも平年値を上回った(図7,8)。
※3月、4月ともに確保できた1サンプル(3月下旬、4月下旬)のみの値

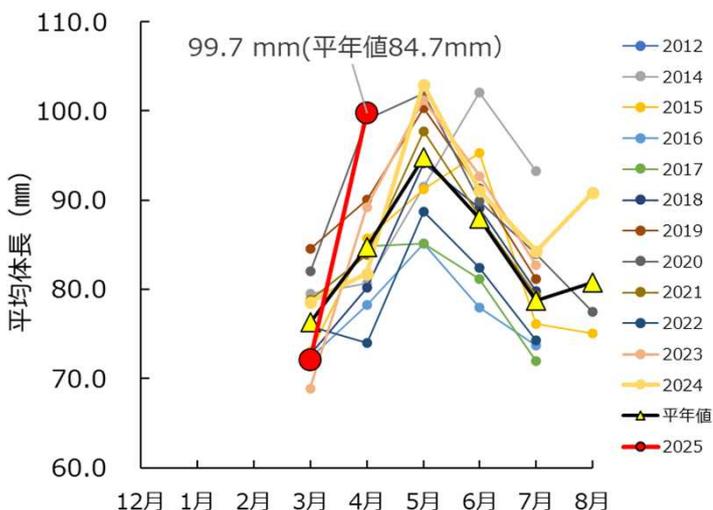


図7 ヤナ漁獲アユの平均体長の推移

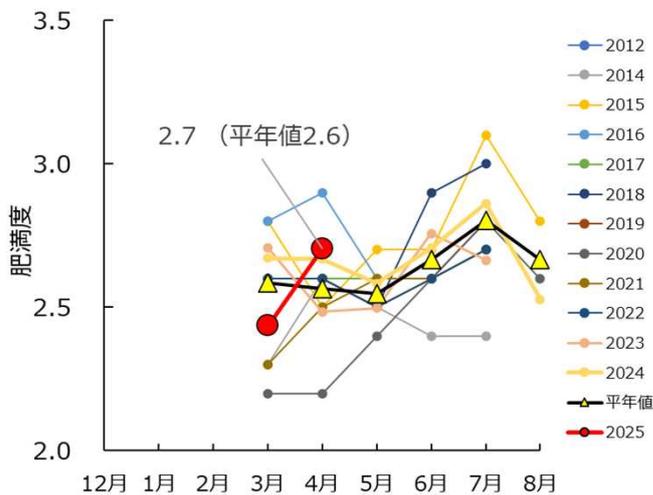


図8 ヤナ漁獲アユの平均肥満度の推移

4. 琵琶湖環境

●プランクトン

- ヒウオの初期餌料のノープリウス(ケンミジンコ類の初期幼生)の生息密度は、9月から11月まで低かった(図9)。
- 体長15mm以上のアユの餌となるケンミジンコおよび大型ミジンコの密度は、10月以降過年度並みか低めに推移している(図10,11)。

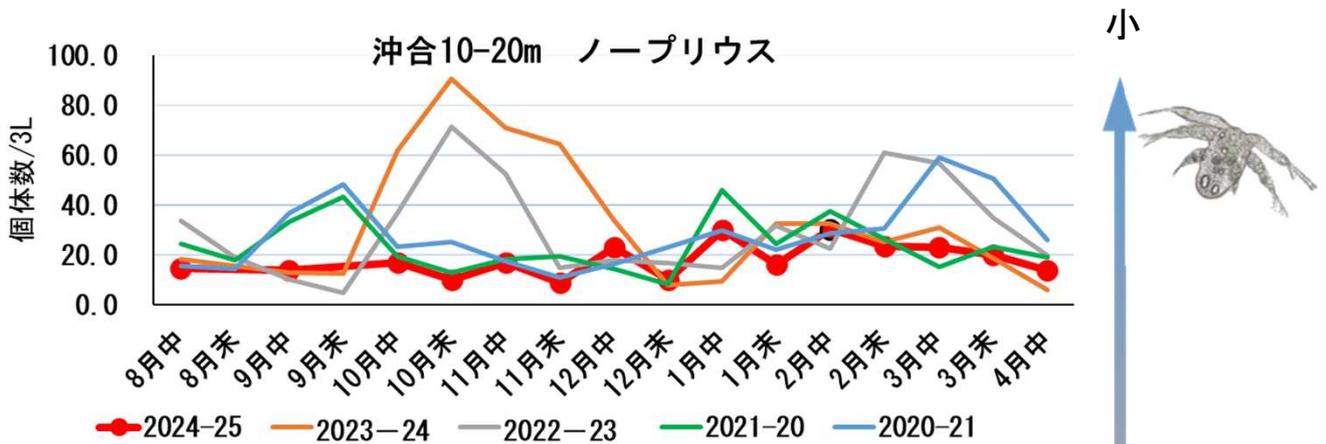


図9 ノープリウス幼生の生息密度

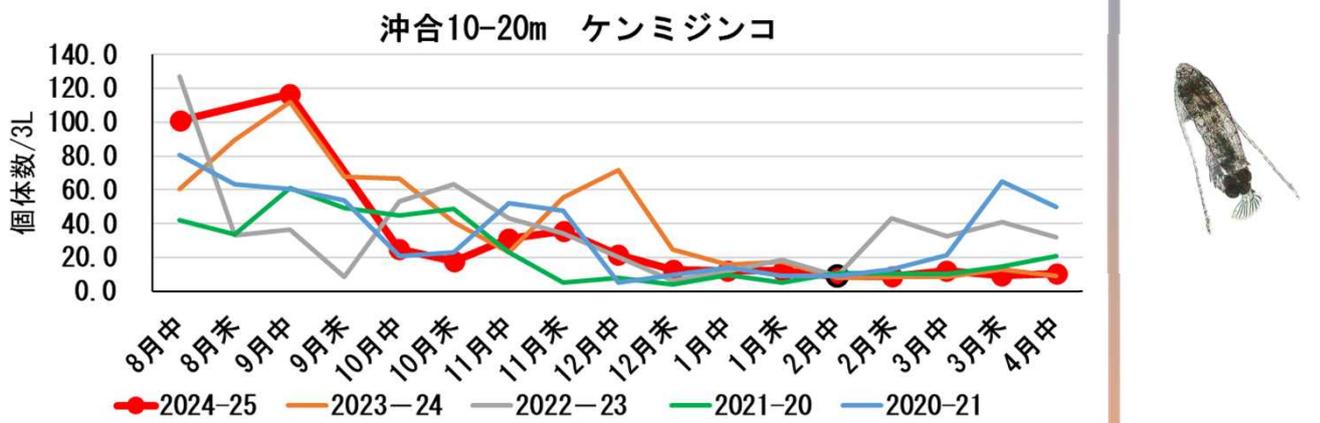


図10 ケンミジンコの生息密度

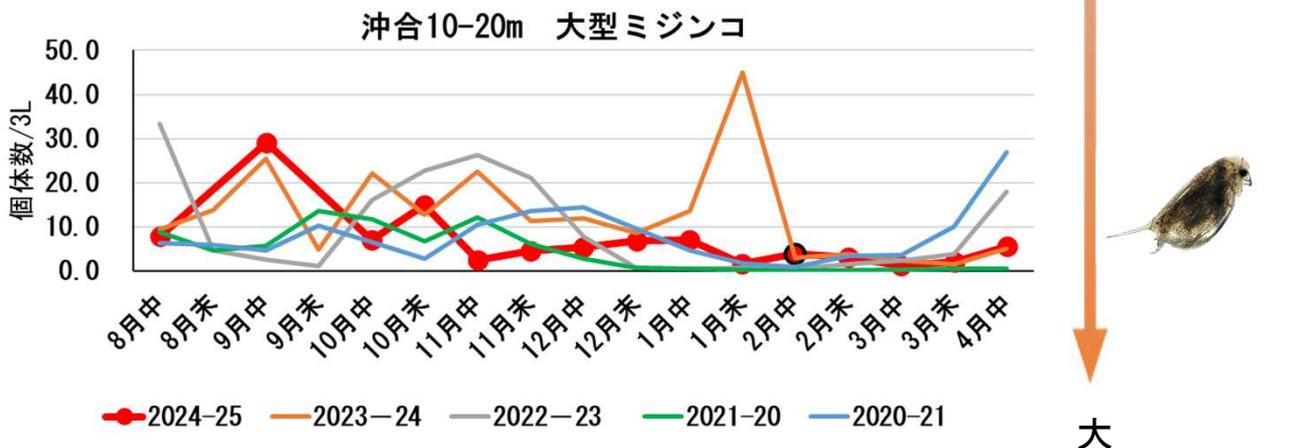


図11 大型ミジンコの生息密度

※2024年2月のプランクトン調査は2月7日に実施しているため参考値

●水温

- 深度10mまでの表層では、8月～12月までの水温が平年値を上回り、1月以降は平年並みに推移した。2月下旬には、水温が7.2℃まで低下した。

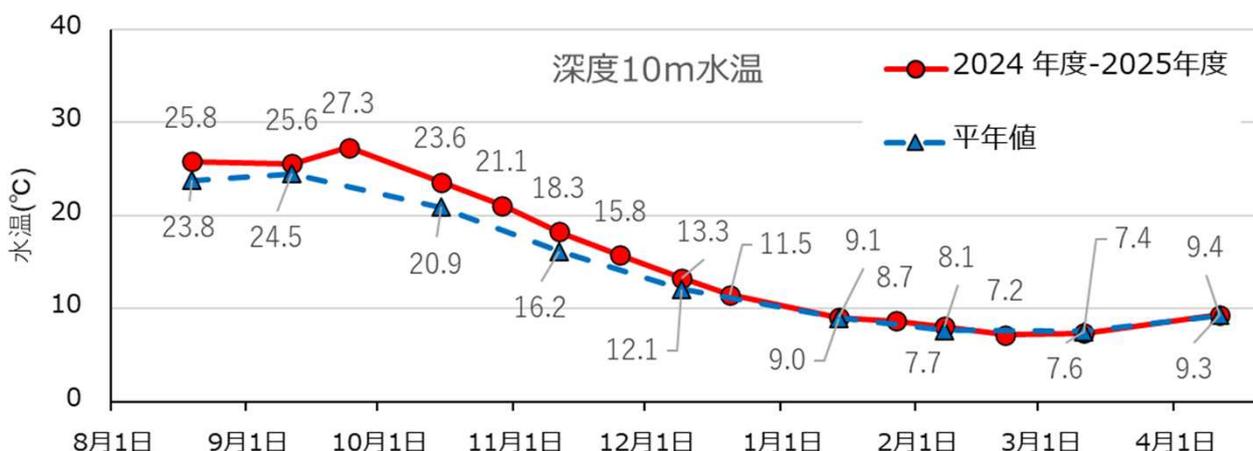


図12 深度10m水温の推移
(平年値は30年間 (H3-R2年)の平均)

5. 漁獲状況

時期	聞き取り内容
12月	<ul style="list-style-type: none"> • 12月2日の解禁から<u>極めて低調に推移</u>。 • <u>1日あたり数kg～数十kg/統</u>のところが多い。
1月	<ul style="list-style-type: none"> • <u>1日あたり数kg～20kg/統</u>のところが多く、<u>昨年1月ほどではないが低調</u>。 • サイズは1月前半まで小型のものが多かったが、後半に入り体長6cm程度のコアユサイズもみられるようになった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> • 2月は寒波の影響で出漁できない日が多く、出漁しても<u>1日あたり数～十数kg/統</u>ほどで<u>昨年2月ほどではないが低調</u>。休漁しているところも多い。 • サイズは1月後半に入り体長6cm程度のコアユサイズもみられるようになったが、2月の寒波後から少なくなった。
3月	<ul style="list-style-type: none"> • 漁獲は<u>数kg/統～十数kg/統</u>の日が多く、<u>2月に引き続き低調だった</u>。体長は小さく、ヒウオサイズのものが多い。まとまった漁獲がないため、鮮魚で売られる場合が多い模様。3月半ばから安曇川のヤナ漁が開始し、3/25には少ないながらもアユの遡上があった。
4月	<ul style="list-style-type: none"> • 漁獲は<u>数kg/統～十数kg/統</u>の日が多く、<u>3月に引き続き低調だった</u>。体長は小型が多いものの、大型(100mm以上)も見られるようになってきた。 • ヤナ漁も始まっているが、アユの漁獲はほとんどない。 • おいさで漁は4月下旬から開始され、<u>数十kg獲れる日もあるが、10～20kgの日が多く</u>、例年に比べると少ない。 • 小糸漁は4月下旬に入ってから<u>数十kg/日獲れるところ</u>がではじめた。